

# 令和2年度「子育て協働フォーラム」

## <実施報告>



子育て応援とうきょう会議事務局

## ▶ イベント概要

【名称】 子育て協働フォーラム

【日時】 令和2年12月13日（日曜日）午前10時～午後3時30分

【会場】 東京ウィメンズプラザ（渋谷区神宮前）

【対象】 協働会員（企業、NPO団体、区市町村等）、子育て支援に関心のある企業・団体等の方、その他参加を希望する方

【主催】 子育て応援とうきょう会議

【目的】 本会議の協働会員を中心とした企業、NPO、団体等の先駆的な取組を紹介するとともに、お互いに顔の見える関係をつくることにより、自主的な協働の基盤づくりを行い、地域での機運醸成を促進。

## ▶ 参加人数

【参加申込人数】 103名

【参加人数】 **65名**（会場参加42名、オンライン参加23名）

（※参考：昨年度「子育て協働フォーラム」参加者 計67名）

## ▶ 第1部

# ○子供シンポジウム『ティーンズ・アクション TOKYO 2020』

【参加者】5グループ・21名（中学生7名、高校生14名）

※各グループに東京学芸大こども未来研究所の学生スタッフを配置し、アドバイスを実施

〈座長〉 小森 伸一先生（東京学芸大学准教授）

〈パネリスト〉 藤原 和博氏（教育改革実践家）

羽生 祥子氏（日経BP編集委員／子育て応援とうきょう会議委員）

多田 博史氏（東京都福祉保健局少子社会対策部調整担当課長）



※子供シンポジウムはとうきょう子育てスイッチ  
YouTubeチャンネルでアーカイブ配信中

## **◆グループ1：私たちと都政をつなぐイベントを企画しよう！**

親子関係や子育てに関わる課題を起点として、児童虐待や子供食堂の実態を調査し、子供たちの声を届けるためのイベント「トドケル - 創ろう私たちの未来 -」を提案

## **◆グループ2：どんな“まち”なら親子でお出かけしたくなる？**

お出かけを、①気軽なお出かけ（公園／ショッピングモール）、②特別感のあるお出かけ（アミューズメント施設）、③障害児や病児のお出かけ（障害児や病児とその家族のための住宅施設）、④快適なお出かけのための交通整備という4つの観点から考え、親子でお出かけしたくなる「理想のまち」について提案

## **◆グループ3：家庭生活と仕事の両立を実現できる社会とは？**

子育てに関わる困りごとの相談窓口や子育て支援サービスについてのアンケート調査などを分析し、困りごとを抱える個人と行政をつなぐためには、「子供が声を上げやすい環境」をつくる必要があるのではないかと提案

## **◆グループ4：グローバルな時代、言語や文化の違いを理解し合おう！**

国際交流は、地域のような小規模な単位で行うことが重要なのではないかという観点から、①いろいろな国の人々が気軽に交流できる場所づくり、②異なる食文化を知ることができる定期的なイベントの開催、③日本語を母語としない子供や保護者交流のための環境・人的支援の必要性について提案

## **◆グループ5：放課後改造計画！ どうすれば放課後がもっと楽しくなる？**

「放課後」の現状についてのアンケート結果から、子供たちが「行きたい」と思えるような新たな居場所を提案

## ▶ 第2部

### ○ ゲスト講演

『つなげよう！ 地域社会 - 子供たちの未来を拓くために -』

<講師> 藤原 和博氏 (教育改革実践家)

## ▶ 第3部

### ○ パネルディスカッション

『子供の想像力と未来を育む、  
協働プランを考えよう。』

<登壇者>

坂口 友紀子氏 (NPO法人 国際自然大学校 理事)

海野 千尋氏 (NPO法人 ArrowArrow 代表理事)

植原 正太郎氏 (NPO法人 グリーنز 事業統括理事)

八坂 貴宏氏 (NPO法人 コチカラ・ニッポン 理事)

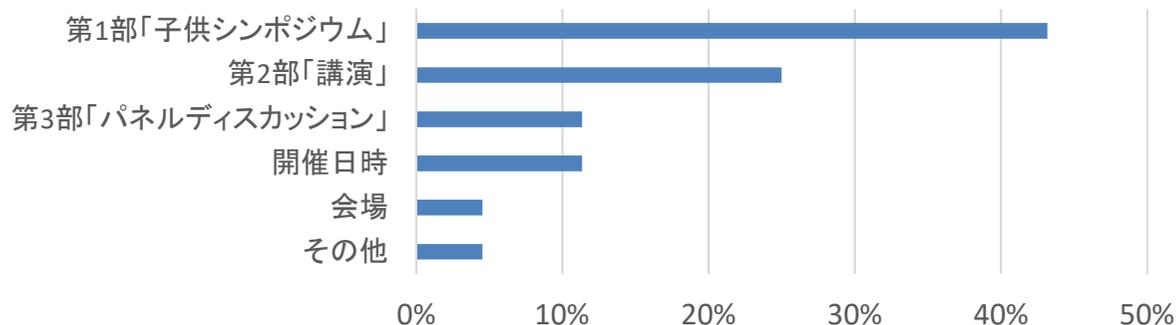
<ファシリテーター>

藤原 和博氏 (教育改革実践家)

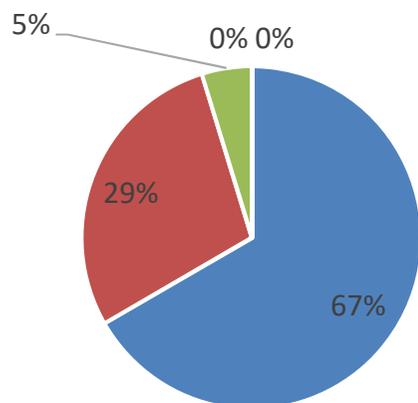


# ▶ 主要アンケート結果

参加を決めたきっかけ(複数回答可) (回答数27)

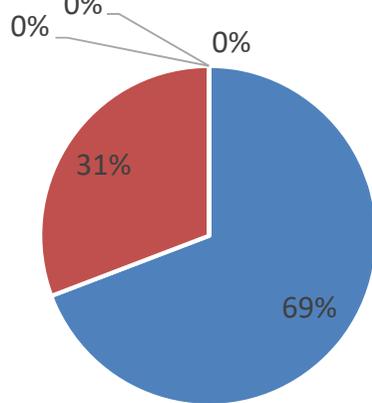


第1部 (回答数21)

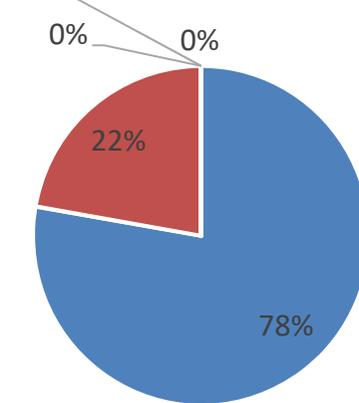


- とても参考になった
- 参考になった
- どちらともいえない
- あまり参考にならなかった
- 全く参考にならなかった

第2部 (回答数13)



第3部 (回答数9)

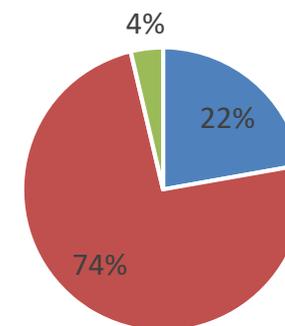


## 【その他】

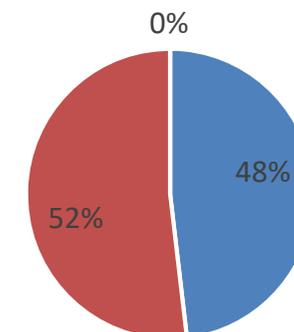
- ・ 大人同士の連携や子供との協働など、新しいことを創造するきっかけになった。
- ・ 子供と大人では着目点に違いがあり、大人にはない視点が面白かった。
- ・ 大人からの発信だけではなく、子供からの発信も吸い上げていくべき。
- ・ 子供の悩みは親が知っているはずという前提が自分にもあるかもしれないと思った。
- ・ コロナ対策でやむを得ないが、グループワークをやりたかった。

## 【参考】

子育てスイッチをご存じですか



子育て応援とうきょうパスポートをご存じですか



- はい
- いいえ
- 未記入